
(仮称)大阪フィランソロピー会議の検討

～大阪から新たなフィランソロピーの流れを生み出す～

(仮称)大阪フィランソロピー会議の目的・意義

ソーシャルイノベーションを生み出す環境づくりを通じて、

大阪が「フィランソロピーにおける国際的な拠点都市」を目指す。

< 背景・課題 >

世界では、寄付や投資を通じた公益活動が、社会的課題解決の第三の道として新たな時代の潮流になってきている。**(フィランソロピーが世界の潮流に)**

一方、我が国においては、非営利セクターの活動は約3.5兆円(愛知県GDPと同規模)の規模があると言われているが、寄附や非営利セクターの役割などはアメリカやイギリスと比較すると決して大きいとはいえない。また、非営利セクターが世間から十分に認知されているとまでいえず、その強化に向けてさまざまな課題を抱えている。

大阪は都市の発展において、民の力が大きな役割を果たしてきた歴史を有しており、そのDNAを再び活性化させていく必要。

< 目的 >

新たな主体間のアライアンスや従来とは異なる手法の導入などにより、ソーシャルイノベーションを生み出し、社会課題の解決につなげる。

社会課題解決を通じて、自己実現を目指すクリエイティブ人材など多様な人材が活躍できる場を創出する。
ソーシャルイノベーションにより、新たな産業や市場の創出を生み出し、都市の成長に寄与する。

< 意義・効果 >

課題解決に向け行う寄附や社会的投資など、世界的にフィランソロピーの関心が高まる中、大阪において従来の営利・非営利を越えた多様なセクターが一堂に集う「核となる場」をつくり、新たな仕組みで社会解決を行うソーシャルイノベーションを起こすことにより、国際的な存在感を高める。

新たな主体の一翼となる非営利セクターの役割や信頼が高まることにより、人材や寄附、投資が集まるなど、非営利セクターが抱えている課題を解決し、大阪における民間活動の活性化につなげる。

(仮称)大阪フィランソロピー会議の構成、コア会議検討テーマ(たたき台)

会議の構成 イメージ

非営利セクターの関係者等が集い議論を行う「コア会議」とインクルーシブで関係団体等が広く参加できる「全体会議」からなる会議体を検討



コア会議:非営利の各法人類型などでリーディング的な団体の責任者、学識、行政等で構成

全体会議:本会議の趣旨に賛同した団体等で構成(インクルーシブな会議体)

コア会議 検討テーマ イメージ

情報発信、普及促進

非営利セクターの社会的な認知度向上(活動の発信、大学等との連携)
非営利セクターの情報の見える化の検討(法人の決算概要、活動内容・イベントなど)
情報を集約・発信する仕組みの検討

海外向けの発信
民都・大阪としての発信(フィランソロピー都市宣言)
イベント(学会、フォーラムなど)の開催や誘致等の検討

新たな資金の流れづくり

プロジェクト型の寄附の促進
SIB、ベンチャーフィランソロピーなど新たな仕組みの研究
法人のプロジェクト・活動を認定・格付けする仕組み・基準
遺贈相談など、寄附のマッチング
寄附の受け皿としての組織の必要性

その他

必要な運営支援
(情報発信、資源の確保、法人運営に必要な手続き、財務処理、役員のリスクヘッジ)
必要な起業支援(法人設立、企業等との連携、資源(人・金)の確保)
必要な制度改正・規制緩和

情報発信、普及促進

- ・非営利セクター見える化のポータルサイト立上げ
- ・プロモーション事業を関係者が連携して実施(イベント、キャンペーン、HP・SNSなどでの発信)
- ・フィランソロピー都市宣言
- ・大阪での国際セミナー、学会誘致 など

新たな資金の流れづくり

- ・クラウドファンディングポータルサイトの立上げ
- ・寄附、遺贈の受け皿組織、対応窓口の設置
- ・休眠預金の受け皿組織、対応窓口の設置
- ・SIBなどのモデル実施 など

その他

- ・会議として国へ提言
- ・非営利とベンチャー(営利企業)との連携
- ・経営支援人材と非営利のマッチング など